



# 北の森林<sup>も</sup> 国有林<sup>り</sup>



## 今月のトピック

- ・ 国有林材の安定供給の取組
- ・ 平成 28 年度国有林モニター現地見学会

平成 28 年度国有林モニター現地見学会  
(空知森林管理署管内)



国民の森林・国有林

北海道森林管理局



# 国有林材の安定供給の取組

## 地域への安定供給に向けた取組

林野庁では、地域の木材の価格や需給の動向を把握・分析し、国有林からの木材の供給量や供給時期の調整が必要なのかなどの検討を行うため、平成25年度より、林野庁本庁に中央国有林材供給調整検討委員会を、各森林管理局では各局の国有林材供給調整検討委員会を設置することとしています。

北海道森林管理局では、学識経験者や関係事業者、関係業界団体代表等の外部有識者で構成する「北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会」を設けアドバイスを参考にしながら国有林からの木材の安定供給に努めています。

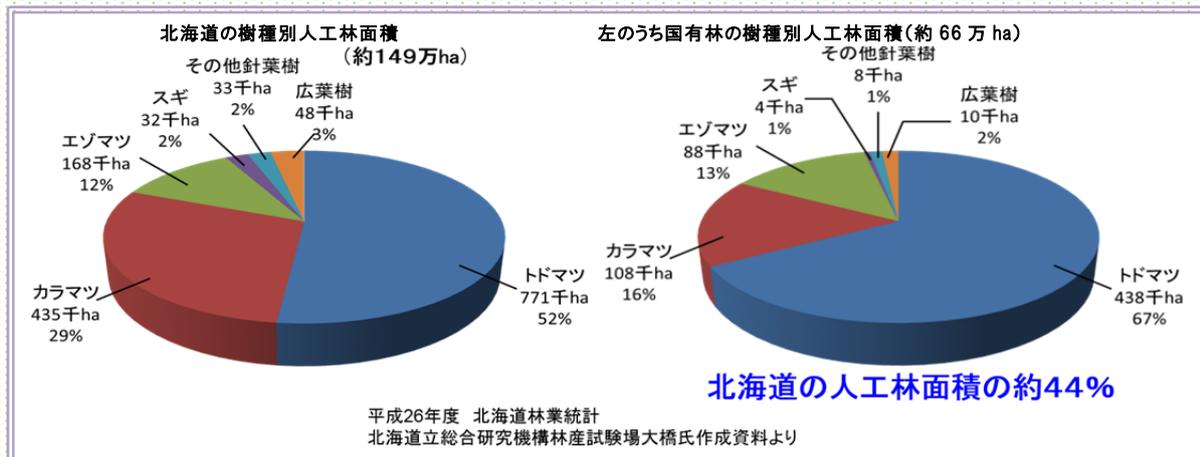
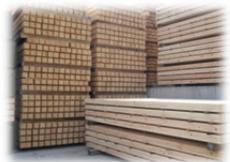
特に北海道森林管理局は、北海道の人工林の約44%に匹敵する約66万haのトドマツを主体とする人工林を管理しており、道内の丸太の供給にも影響を及ぼしています。

木材の価格が急激に上昇したり下降した時に供給を調整することにより、その影響を少しでも緩和するよう努めており、このような供給調整検討委員会は意義深いものであると考えています。



### 安定供給

製材工場やチップ工場等の木材加工事業者、素材生産業者、流通事業者



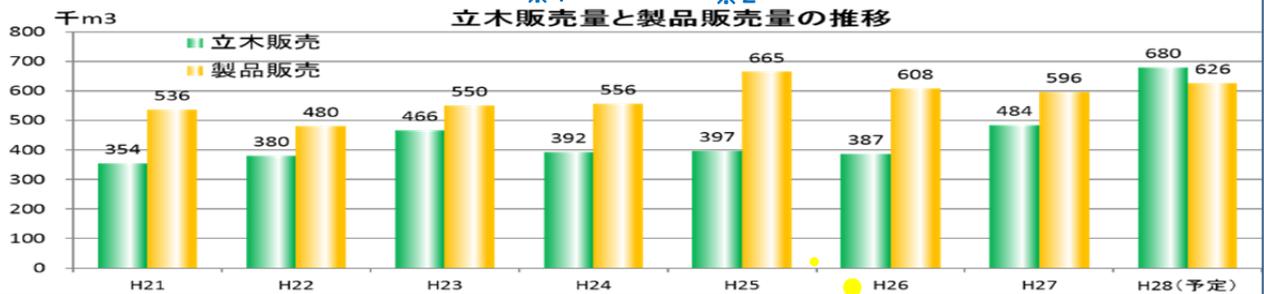
# これまでの供給調整の事例

平成26年4月に消費税率が従来の5%から8%にアップした際に、住宅等の比較的金額が大きい消費財に対する駆け込み需要があったことは記憶に新しいところと思われます。

平成25年秋頃から平成26年の年明け頃には、木材価格の上昇が見られ、また、平成26年1月の検討委員会では「北海道内の製材工場などの加工施設の原料である木材の在庫量が不足している」といった意見がだされました。

これを踏まえ、北海道森林管理局では平成26年3月期の木材の販売（一般公売）を調整し、年度内に約3万m<sup>3</sup>程度の丸太の追加販売を行いました。

## 北海道国有林の木材供給量



- 【ことばの学習コーナー】
- ※1 立木販売  
木が山に立ったままの状態販売をするもの
  - ※2 製品販売  
山から木を伐採し、丸太にした状態で販売するもの

## 今後の木材の安定供給に向けて

また、国有林材の安定供給を図り、木材の伐採業者や製材工場等の需要者の安定的な木材調達のお役に立てるよう、目安として毎月の販売予定量を北海道森林管理局のホームページにて公表しています。

現在、林野庁では国産材の利用拡大に向けて、CLT（クロス・ラミネイテッド・ティンバー※3）や耐火部材などの新たな建築部材の技術開発、普及等に取り組んでいます。

今後はこれらを通じて木材の一層の需要の増加が見込まれる中、木材の安定供給について引き続き務めていきたいと考えています。

今年、8月の台風等により北海道内の各地域に様々な農林漁業等への被害が及びましたが、林業においては、市町村道や林道等が被害を受けて通行がままならないなど、民有林・国有林を問わず森林からの木材供給への影響が懸念されます。

森林管理局としても可能なところから林道機能の回復を図り、木材の供給力の回復に努めて参りますが、このような時こそ、民有林と国有林が共に手を携えて木材の安定供給を目指していくことが重要であり、需要者からも望まれているものと考えています。

（資源活用第一課）

※3

## CLT(Cross Laminated Timber: 直交集成板)とは

- CLTとは、ひき板を繊維方向が直交するように積層接着した重厚なパネル。
- 欧米を中心にマンションや商業施設などの壁や床として普及しており、我が国においても国産材CLTを活用した中高層建築物等の木造化による新たな木材需要の創出に期待。



海外における事例



9階建て共同住宅（イギリス）

国内でのCLT建築の事例



共同住宅（福島県河沼郡湯川村）

# 地域と連携した エゾシカ被害対策の推進

## 地域課題の解決に向けた取組 根釧東部森林管理署

当署は北海道の最東端に位置する森林管理署であり、知床半島南西側から根室半島までの10万6千ヘクタールの国有林を管理しており、管内は広大な根釧台地に牧草地帯が広がっています。

当署管内の国有林は、直接これらの牧草地帯と接しているところが多いということもあり、特に

森林と農地を行き来しながら被害を及ぼすエゾシカについて、農林共通の地域の課題として、当署としても関係機関との連携を図りつつ、積極的な対応をしてきているところです。

具体的には、当署管内でもエゾシカが多数生息している根室市において、関係行政機関である北海



道根室振興局及び根室市のほか、地元農協や猟友会、さらには地域に生息する希少猛禽類であるシマフクロウの専門家等にも参画いただいて「根室市国有林内エゾシカ対策協議会」を主催、開催するなかで、地域内の連携による効率的かつ効果的なエゾシカ対策の推進を図っています。

また、猟友会等が行うものとは別に当署が委託により行っているエゾシカの捕獲事業等についても、効果が期待できる捕獲箇所等について、関係者の意見をいただいています。

また、今後の課題としては、銃猟による駆除では、エゾシカが国有林の銃猟禁止区域に逃げ込む



根室市国有林内エゾシカ対策協議会

エゾシカ対策の推進に当たっては、シマフクロウの繁殖等に影響を及ぼ

さないようにすることも必要であることから、協議会において、駆除を担う猟友会等とシマフクロウの専門家で、狩猟が可能な場所や時期について議論していただいています。

また、今後の課題としては、銃猟による駆除では、エゾシカが国有林の銃猟禁止区域に逃げ込む



エゾシカの群れ

当署が行う捕獲事業は、冬季にエゾシカが集まる場所において罠いワナを設置し生体捕獲を行うもので、27年度の捕獲実績は104頭でした。

捕獲したエゾシカは、ジビエ料理用として関東、関西方面に出荷され、有効活用されています。

罠いワナによる捕獲は、受託業者の意見も聞いて、罠の改良を行っており、一定の成果を上げていますが、夜間に活動することが多いエゾシカを、効率よく捕獲するために、夜間の捕獲ができる手法を検討するなど更なる改良が必要な状況です。

また、今後の課題としては、銃猟による駆除では、エゾシカが国有林の銃猟禁止区域に逃げ込む

ことにより捕獲効率が低下するため、シマフクロウ等に影響を与えない範囲で、その生息地においてもエゾシカの捕獲ができないかといったことがあげられています。



罠いワナによる捕獲

「根室市国有林内エゾシカ対策協議会」での議論を通じて、こうした課題に対し、関係者間で合意可能なより良い解決策を見いだしていければと考えています。



石狩地域森林ふれあい推進センター

今回は、当センターが主催する大きなイベントの一つである「札幌水源の森づくり」について紹介いたします。



ポット苗木づくりイベント（創成川公園会場）

このイベントは、札幌市の水がめと言われている定山溪国有林が、豊かで良質な水を育み市民の生活を支える「水源の森」として重要な役割を果たしていることを知っていただくとともに、定山溪国有林を市民の貴重な財産として次の世代に引き継いでいくことに役立てるために行っています。当センターが発足した平成16年から札幌市とともに開催し、北海道、森

林ボランティア団体や教育関係機関等の協力を得つつ、13年目を迎えた今年は8月27日に開催しました。

●ポット苗木づくり

市民のみなさんに「水源の森」とのかかわりを身近に感じていただき、誰でも気軽に楽しんで参加していただけるよう、札幌の街の中心で、再生ダンボールでできた「カミネッコン」を使用したポット苗木づくりをしていただいています。これまでに通算約6千個のポット苗木を作製しました。

●「水源の森」rns

作製したポット苗木を植栽している現地は、定山溪ダムの上流部に位置する国有林で、植栽以前は台風等により、樹木が倒れたり幹の途中から折れたものが散在し、ササが一面に繁茂し、一見すると森林に穴が空いたような状態になっていました。

このような樹木が十分に生育していない箇所を

対象に、ポット苗木を植栽するとともに、ササの一部を取り除き、周辺の樹木から散布される種子による天然更新を促し、「水源の森」として再生しています。

●植栽・保育作業

植栽作業については、主催・協力団体だけでなく、ポット苗木づくりに参加したNPO団体や一般市民の方々にも参加していただいております。年々活発化しています。更に、森林での作業の後には、周辺国有林における森林の散策を行い「水源の森」を一層身近に感じていただいております。



現地での植栽作業

また、下刈等保育作業については、森林ボラン

ティア団体の自主活動として当初より継続実施していただいております。



森林再生（奥が昨年までの植栽箇所）

これらの市民のみなさんの活動のおかげで、現地は気象及び土壌等厳しい条件ではありますが、着実に森林再生が進んでおります。

札幌市の水道の蛇口をひねれば出てくる水も、その多くは市の上流部に豊かな森林があつてこそであり、今後においても、市民が気軽に参加しやすい森づくりを進め、『行政機関と連携・協働の森林づくり』として、より一層の展開につながることを期待しているところで

# こんにちは 森林官です!

胆振東部森林管理署 糸井森林事務所  
森林官  
(糸井担当区)  
阿部 博之



胆振東部森林管理署糸井森林事務所は、苫小牧市に所在し太平洋に注ぐ苫小牧川、小糸魚川、錦多峰川の上流部、樽前山麓東側の国有林約9,000haを管理しております。

苫小牧市は、人口173,227人(平成28年9月末)で全道5番目の都市であり、内航取扱貨物量が日本一の苫小牧港や新千歳空港が近く、観光・物流のアクセスは非常に良好であり、気候についても温暖、少雪でとても過ごしやすい都市です。



苫小牧市錦岡から見た樽前山

そして、活火山である樽前山を含む支笏洞爺国立公園や、日本初のパードサンクチュアリに指定

され、国の鳥獣保護区やラムサール条約登録湿地にも指定されているウトナイ湖があるなど、都市近郊に希少な自然が残されている素晴らしい地域です。



ウトナイ湖のハクチョウ

樽前山は、明治42年(1909年)の噴火によってその頂上火口内に典型的な溶岩円頂丘(ドーム)が生成されたことで世界的に有名になった三重式火山で、そのドームは北海道指定の天然記念物に指定されており、学術的にも非常に貴重なものです。昭和49年頃から地震が増加し、昭和53年に小噴火等が見られましたが、その後10年以上静穏な状態が続きました。平成8年から再び地震

活動が活発化し現在も小規模に活動が続いています。

糸井森林事務所の業務としては、日々の林野巡視(森林パトロール)の他に、植え付けや下刈りなどの造林事業や立木販売の監督業務を主として実行しています。



秋の口無沼

また、当森林事務所部内には、丸山遠見望楼や口無沼などの観光スポットがあり、そこへ向かう林道については、狩猟期間を除き林道ゲートを開放していることから、一般の入林者が多く林野巡視はとても重要な業務の一つになっています。



丸山遠見望楼

昭和29年の洞爺丸台風及び、平成16年の18号台風では大規模な風倒被害を受けたところですが、昨年の23号台風でも大規模な風倒被害を受け、現在、買い受け業者により処理作業が行われているところですが、



平成27年の風倒被害地

昨年の23号台風による風倒被害箇所については、今後本署職員と協力し、長期的な視点から風害を軽減する森林づくりを目指し、復旧に努めたいと思います。

# 各地からの便り

「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索



## 【空知森林管理署】

9月28日、三笠市菊面沢国有林において、市町村の森林行政担当者等を対象に、担当者の技術の向上や、地域の森林・林業が抱える各種課題の解決に資する取組へつなげることを目的に「森づくり勉強会」を実施しました。

これは、「市町村の森林・林業行政に係るアンケート」調査を実施した結果、「主伐・間伐の実施方法」に関する内容での研修会実施に対する強い要望があり、それを踏まえ空知総合振興局と連携し開催したものです。

当日は総勢42名の参加がありました。

参加者からは、国有林野での施業に興味を持たれ、事業内容等に係る意見が多く出され有意義な検討会となりました。



## 【日高南部森林管理署】

10月1日、新冠町芽呂の国有林において、NPO法人「アオダモ資源育成の会」と日高南部森林管理署共催の「バットの森づくり植樹祭」を開催しました。

道内でも特に日高管内に多く自生し、バットの材料として最も優れているといわれるアオダモの植樹を行い、アオダモ資源の育成を図るとともに環境意識を高めることを目的としているもので、新冠国有林では13回目を迎えます。

開催当日は新冠町民、浦河高校野球部、地元ボランティア団体など約90名以上が参加し、アオダモの苗木200本を植樹しました。

また、アオダモ資源育成の会から浦河高校野球部にバットがプレゼントされました。



## 【北海道森林管理局】

10月12、13日に上士幌・標茶会場において、無人航空機（ドローン）の講習会を初めて市町村林務担当職員と合同で開催しました。

この講演会は、災害調査をはじめとする、森林・林業分野全般において、今後様々な活用が期待されている無人航空機（ドローン）の飛行に際して、必要な知識（航空法関係）や安全に飛行させる操作技術の習得を目的としています。

参加者からは、「撮影した画像が鮮明で驚いた」「林業の現場でも活用できるので購入を検討したい」と言った感想がありました。

北海道森林管理局では、今後も、他地域において講習会の開催を予定しております。



## 【根釧西部森林管理署】

10月9日に、弟子屈町役場と共催で弟子屈町秋の名木ツアーを開催しました。

弟子屈町名木ツアーは今年で10年目を迎え、毎年春と秋の2回開催し今回のツアーは通算20回目となります。

今年8月に北海道に上陸した台風の影響により、名木14本のうち、エゾヤマザクラ1本が被害を受けましたが、当日は22名の方に参加いただき、モミジなどの名木7本を観察したほか、屈斜路湖や摩周湖、川湯エコミュージアムセンターに立ち寄りしました。

参加者の皆様は、触ったり、匂いをかいだりと五感をつかって自然を体感したことでツアーを楽しんでいただけたのではないかと思います。

# 国有林モニター現地見学会 2016年



10月15日、空知森林管理署管内の国有林において、平成28年度国有林モニター現地見学会を開催しました。林野庁では、国民の意見・要望を把握し、国有林の管理・経営に役立てるため、国有林モニター制度を設けており、北海道森林管理局では全道各地の48名の方々に、2年間就任いただいています。

この取組の一環として現地見学会を開催し、道内各地から24名のモニターの皆さんに参加いただきました。当日は、長沼町・夕張市の国有林において、防風保安林整備、森林整備(間伐)、造林(植付)事業の各現場を見学しました。



長沼町の防風保安林整備事業現場

モニターの皆さんからは、今回の台風による被害状況、

高性能林業機械の機能や操作資格、苗木が一日に何本植えられるかや植付後の管理方法など様々な質問が出されました。

特に初めて見る高性能林業機械には皆さん驚いていました。



ハーベスタによる枝払い作業見学

今回の現地見学会では、普段見られない間伐作業や植付作業など、林業の現場作業について、理解を深めていただけたものと考えています。

(企画課)



トドマツの苗木を植付体験

## フォーラム「野幌森林公園の今」 ～10年間の動植物調査でわかったこと～

平成16年の台風により、世界的にも例のない大規模な都市近郊林である「野幌森林公園」にも大きな森林被害がありました。被害地を自然林に再生させるため、石狩地域森林ふれあい推進センターが市民と協働で「野幌森林再生プロジェクト」を実施しています。その一環として、森林の回復状況を把握するため、植生、昆虫、菌類、野生動物のモニタリングを行い、今回、その10年間の成果を学識者とともに情報発信するフォーラムを開催いたします。

日時：平成28年12月4日(日曜日)13時～16時

会場：北海道博物館 講堂(札幌市厚別区厚別町小野幌53-2)

申込み：事前の申し込みが必要です。※詳しくは、北海道森林管理局HPをご覧ください

### お知らせ

「北の国・森林づくり技術交流発表会」の開催と発表の募集について

北海道森林管理局では、平成29年2月2日、3日の2日間、北海道大学「学術交流会館」において、森林・林業に係る技術情報等の情報交換を図るため、「平成28年度北の国・森林づくり技術交流発表会」を開催することとし、森林づくり、森林環境教育を含め、森林・林業に関連する取組活動についての発表を募集します。詳しくは、北海道森林管理局HPをご覧ください。

広報 「北の森林 国有林」11月号  
発行 北海道森林管理局  
編集 総務企画部 企画課  
〒064-8537 札幌市中央区宮の森3条7丁目70  
I P 電話 050-3160-6300  
電 話 011-622-5213  
F A X 011-622-5194

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>